

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	449060022		
法人名	有限会社ふくすけ		
事業所名	グループホームふくすけ		
所在地	大分県臼杵市大字戸室字長谷1135番地の1		
自己評価作成日	平成28年11月18日	評価結果市町村受理日	平成29年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成28年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、建物が出来上がって、10年がたち、デッキが老朽化したため、改装して、屋根をつけ雨天でもデッキで作業、選択物干しができるように改善されています。そして、今年度のスローガンは職員が安心して家族を入所させたいと思うふくすけにしてい。認知症介護のプロとして接愚に徹底 自分の行った行動をありのままに記録に残す。として原点回帰して、1からサービスを見直していっています。利用者様本位とチームワークでサービスの改善を行ってきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員が利用者の自立を損なわないように配慮した声掛けを行っている。掃除や洗濯物干しなど、日常の暮らしをさりげなく支援している。
 ・アセスメントや「私のプロフィール」表を活用して、生活歴や暮らしてきた地域の特色などを記録し、本人の思いを大切にケア、その人に合った個別のケアに努めている。
 ・医療連携のための個人ファイルを作成し、受診に職員が付き添い適切な医療が受けられるよう支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、申し送りの際、出勤全職員で理念を復唱し、また1年ごとのスローガンを設け、具体的に話し合い実践に結び付けるように取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、スタッフルームや玄関などに掲示している。毎朝復唱し共有している。年間スローガンや月の目標を作成し、理念に沿ったケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々地域の方々と挨拶を交わしながら、ボランティアの施設訪問や、夏祭りの参加等と通じてより良い交流が行われるように努めている。	事業所の夏祭りに地域の人を招待している。近隣の病院や商店に出かけ、地域の人との交流をしている。敬老会や運動会など、地域の行事へ参加し、地域の一員として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全職員が認知症研修に参加し、自らのレベルアップに努力し、地域の会議に参加して、実践から得たことを発言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のケアや行事の取り組みを報告相談し意見を頂いている。ご家族様の参加もいただき、意見をもらう。	会議に家族が交代で参加している。市担当者や包括支援センターから、情報をもらいながら、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を始め、夏祭り等の行事に参加頂いたり、不明なことは担当者に電話、メール、または直接伺ったりして連携を取っている。包括支援センター主催の実務者会議、地域ケア会議に参加し、情報収集、情報後見を行っている。	市担当者や包括支援センターは毎回、運営推進会議に参加している他にも、地域のケア会議で情報共有を図りながら、アドバイスをもらうなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	色々なリスクが発生する中、利用者様の生命の安全を優先し、施設の可能な限りの環境下でケアを行っている	職員会議や勉強会の中で、身体拘束をしないケアの大切さを学んでいる。年2回、職員アンケートで振り返りの機会を持ちながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の中話し合い、自己チェック表を作成し職員は管理者に提出し、管理者は個人面接を行い把握に努めている。また、それとは別に、必要があれば個人面談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様には成年後見制度を利用されている方も居られる。関連施設にて市民後見人をされているので勉強会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書、個人情報使用同意書に添って、時間を取って丁寧に説明している。事業所もケアに関する考え方や取り組み、運営推進会議の参加をお願いしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、手紙や面会時に明るく挨拶を行い、行事の際には手紙を出して参加をお願いして、施設職員と話しやすい関係性作りに努めている。出された意見や要望は、話し合い対応するようにしている	職員の接遇に配慮し、家族が訪問しやすい雰囲気づくりを心がけている。家族と職員の会話が増えることで意見を多くもらっている。出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を聞くように心がけている。ケアカンファレンスで発言出来ない職員が少人数の各委員会の会議で発言したことを各委員長が職員会議の際にケア会議にも発言することで意見が表されるようにしている	テーマを絞った少人数の会議で職員の意見や提案を引き出し、全体の会議の中で検討する等、意見を引き出す工夫をしている。出された意見は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年2回の面接を行うなど現場職員の状態を把握し各職員の評価に努めている。希望者には資格取得の支援に配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設に講師を招き、全職員が受講できるように計画を立てて実行している。また受講した研修内容をケアカンファレンス等で報告し日々のケアに生かすように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学や、地域主催の会議に参加し交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に御本人に会い、出来る限り情報収集を行う。入所後は御本人と積極的にコミュニケーションをとり、聞き取りを行い、安心して生活して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にはこれまでの生活や思い、これからの思いを伺い、御本人と共に関係性を作っていくように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人やご家族様と話し合う機会を持ち、状態の把握に努めている。必要であれば、他サービスへ繋げるように心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様とコミュニケーションを持ち、不安や喜び等職員全体で把握し思いを共感し、安心して和やかに生活できるように共に支えあう関係性を築く事に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日々の暮らしの出来事た状況を毎月の手紙や施設新聞で報告している。来訪時には状況をお伝えしたり、必要時には電話連絡を行い関係性を築くように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の住んでいた地域にドライブに出かけたり、ご家族様やご友人が来訪しやすい環境作りに努めている	本人の住んでいた地域の特性や好きだったことを詳しく聞き取っている。自宅訪問や馴染みの店での買い物など、これまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様みんなで過ごす時間屋仲の良いご利用者様同士で席を近くに等、利用者様同士の関係がうまくいくように職員が情報を共有し支援するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院等に移られた方には必要な限り情報提供し、安心した生活が送れるように支援を心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話を持ち、その際の言葉や表情から把握したり、新たな発見に努めている。意思疎通が困難な方にはご家族様よりお話を伺い把握に努めている	アセスメントや「私のプロフィール」表にこれまでの生活歴や思いを詳細に聞き取っている。日々のケアの中で知り得た内容を追加しながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、新たな情報を聞くことが出来た場合や、ご家族様から聞くことが出来た場合は内容を記録し職員全員が情報を把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活リズムを理解し、共に過ごしていくことで出来る事等利用者様の全体像を把握し安心した生活を送って頂けるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員1人1人が利用者様との関わりの中で気づいたことをケアカンファレンス等で伝えて頂きケアプランに反映できるように努めている	月1回、モニタリングをしている。職員の気づきやケアの変更点を申し送りノートで共有している。本人や家族の意見を聞きながら、職員全員で話し合い、現状に即した計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に身体的状況や生活の様子や御本人の言葉を記録している。PC入力行い、朝礼時に夜勤者が報告するところで職員全員が把握できるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様やご家族様が希望される通院等必要な支援は柔軟に対応し、出来るだけ不安を減らすように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隔月に運営推進会議に市役所、包括支援センター、民生委員、区長に参加して頂くことで、関係性が強化され、情報交換、協力関係が築けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームに入所しても変更の希望が無ければ、居宅に居られた時のかかりつけ医に受診出来る。通院は施設職員が付き添うようにしている	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、訪問診療してくれる医療機関もある。受診時に持参する個人ファイルを作成しており、看護職員を中心に、受診支援を行う等、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師が不在である為、かかりつけ医のNsや同系列の施設看護師に対応を相談し指示を頂いている。また状態によってはDrの指示で訪問看護に対応して頂ける		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院される状態になった場合は、受診時に付き添い、病院で情報提供を行っている。入院中は職員は見舞いに行き、情報交換や相談に努めている。退院が決まった時は早く受け入れ態勢を整えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に、緊急時の対応を書面を用いて説明し、今後の方針を話し合うようにしている。	緊急時の対応や重度化した場合、延命行為に関する同意書を作成しており、機会をみて話し合いをしている。2~3年おきに見直しの機会を作り、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。事故が起こった場合は速やかに医療機関を受診出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防署立ち合いの避難消火訓練を実施。運営推進会議にて自治体や地域に協力を呼び掛けている。また、災害発生に備え食糧飲料水等準備している	昼夜の火災や停電などを想定した避難訓練を行っている。近くにある同法人のグループホームと協働できるよう日常的に連携を図っている。地域の消防団員より防災に関する情報をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりにおいて御本人の気持ちや自己決定を大切にするように努めている。個人情報収集する際も守秘義務に努め慎重に取り扱うようにしている	一人ひとりを尊重し、大切に言葉かけや対応を行っている。勉強会で学び、日々のケアの中での気付きを話し合っている。また、職員アンケートの中で振り返る機会を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人に合わせた声かけを行い、意思表示が困難な方には表情や筆読で御本人の意思が生かされるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り御本人の希望やサインを読み取り支援を行うように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人こだわりのスタイルを把握し、ヘアカラーを行う等、その人らしさを保てるようなケアを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやおかずのつぎ分け等をしていただけるような支援を行っていた。又個人に合った食事形態で提供している。しかし、現在配色サービス利用で出来ていないこともある。	利用者と一緒におやつ作りや団子汁、魚の開き等、手作りを楽しむ機会を作っている。利用者と職員が会話を楽しみながら食事をしている。 おやつの時間には、6種類の飲み物をイラスト入りのメニュー表から選んでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体調と1日の摂取量を把握している。個別に栄養補助食品を飲用されている方も居られる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行える方には声かけ見守りをし、出来ない方に関しては、毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の身体状況に応じて介助を行っている。尿意の無い利用者様には時間を見計らってトイレに誘導し介助している。布パンツ、リハビリパンツ、パッド類も本人に合わせて検討している	一人ひとりの排泄習慣を把握し、さりげなく声かけ誘導している。トイレの場所が分かりやすいように、扉にイラストを貼り、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分補給や体を動かしたりして頂いている、また主治医と連携し内服コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御本人に伺い、希望されない時は、日にちを変えて入浴をしていただいている	できるだけ湯舟に浸かってもらえるよう支援している。時間にとらわれずゆっくり入浴してもらえるよう1日の入浴者を減らし、週に1~2回の入浴回数となっている。	ゆっくり入浴できるよう支援を行っているが、本人のこれまでの習慣や希望に添って更に入浴の回数を増やしていく事など、検討していくことに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の生活習慣に応じた、就寝・起床の支援を行っている。気分が落ち着かれない場合は、職員が寄り添い、入眠を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は服薬出来ているかを確認し変更がある場合は申し送りノートに記入し職員が情報を共有できるようにしている。処方箋は個人薬ファイルケースに保管し、薬の情報がすぐに確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯物たたみ、お盆拭き等)を行って頂くことにより、生活の活力を感じ、カラオケ体操、回想法を行うことにより、喜びや楽しみを感じて頂けるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は、施設周辺の散歩を行っている。家族との外出にも柔軟な対応を行っている	季節の花見や植物園、ショッピングセンターへ買い物に出かけている。近くのコンビニに買い物や散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設がお小遣いとしてご家族様より預かっている。御本人が必要な物は購入して頂き、帳面に記載している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気分が落ち着かれない時等に電話機の子機を使用し、居室内から出もご家族様に連絡し御本人様とお話して頂けるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに熱帯魚を飼育した水槽を配置したり、季節に合って飾り付けを行ったり、廊下の壁面に郷土の観光ポスターを掲示している	利用者と一緒に手作りした季節の飾りを掲示している。故郷の馴染みの風景写真が載っている臼杵市の観光ポスターを飾り、思い出話のきっかけとなっている。屋根付きのデッキで庭を眺めたり、洗濯物を干したり、日常の暮らしを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、リビングにソファを配置したり、座敷の間があり、お好みの場所でくつろいでいただけるように努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自宅から家具を持ち込まれたり、家族の写真を飾ったりして、なるべく自宅に近い環境作りに努めている	使い慣れたテーブルや家具、家族の写真を飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。 日中、居室のポーターブルトイレにはカバーを掛けプライバシーへの配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレートには名前と植物の名称と図を表記している。またトイレのドアには場所が分かりやすくする為に『便所』と表示している		